

3 中学校3年生 指導例【学級活動】

中学校 がん教育 学級活動学習指導案

1 本時の学習指導

① 題材名「科学的ながんの知識 がんちゃんと学ぼう」

② 本時の目標

「がんに対する正しい知識を理解し、
これからの自分の生活行動について考えよう。」

- ・がんの現状や原因を知り、がんなどの生活習慣病は、予防できる病気であることを理解する。
- ・生活習慣を振り返り、自分や家族の課題に気付き、がんを防ぐ方法を考えることができる。

③ 本時の指導にあたって

- ・生徒ががんについて学ぶ必要性を感じるような導入を工夫する。
- ・生徒がゲストティーチャーの指導に興味を持てるよう誘導する。
- ・生徒がグループでの考えや自分の意見を発表しやすいようにグループ編成を工夫する。

④ 準備物

教師 DVD及びスライドショー視聴機材一式、DVD「がんちゃんの冒険(作成:日本対がん協会)」、
中学生用スライドショーデータ、ワークシート、事前事後アンケート

ゲストティーチャー 板書用掲示物

生徒 筆記用具

⑤ 板書計画

がんに対する正しい知識を理解し、
これからの生活行動について考えよう。

香川県の死亡原因
全死亡数の21.9%が
がんで死亡

(出典:厚生労働省「令和5年人口動態統計」)

PP用スクリーン

病気の起こり方

- ① 生活行動
- ② 病原体
- ③ 体の抵抗力
- ④ 環境

がん細胞ががんになるまで

1 異常な細胞



遺伝子の変化

がん細胞ががんになるまで

2 潜在がん



異常な細胞が
がん細胞となり
ふえて周りに広がる

がん細胞ががんになるまで

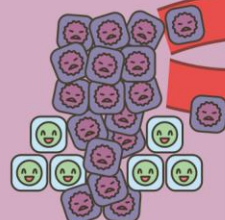
3 早期がん



がん細胞がかたまりとなり
周囲に広がったり
移動しやすくなる

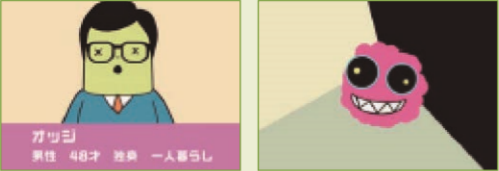
がん細胞ががんになるまで

4 進行がん



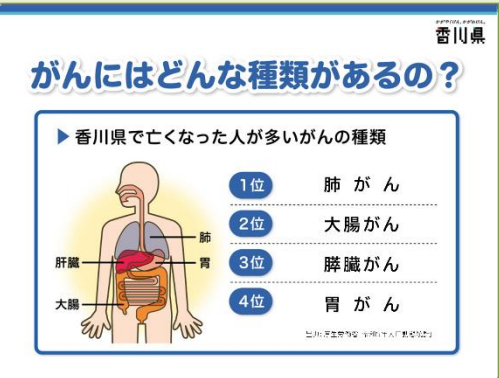
さらに遠くの
組織・臓器に広がる

⑥ 本時の学習指導過程

	学習内容・活動	予想される生徒の反応	教師の支援 (T1:担任／T2:保健師)	T1 (担任)	T2 (保健師)
導入 10分 ／ 50分	1 本時の学習内容について確認する。	がんにについて知らないことがたくさんある。	T1 将来的に、がんの正しい知識を深めることが重要であり、自分のこととして考えるよう促す。	3年生になると保健体育で生活習慣病の学習をします。今日は、生活習慣病の1つであるがんについて学習します。がんは自分には関係ないと思いませんか。授業を聞いて本当に自分には関係ないかどうか考えてみましょう。	
	2 がん〇×クイズに挑戦する。 がん〇×クイズ 1 日本人の4人に1人はがんになる……………× 2 がん細胞は毎日作られている……………○ 3 肉食ばかりだと、がんになりやすい……………○ 4 お酒を飲みすぎると、がんになりやすい……………○ 5 たばこがんは関係ない……………×	クイズ - 日本人の2人に1人はがんになるんだ。 - がん細胞は毎日作られているんだ。 - 肉食ばかりではいけないんだ。 - お酒も飲みすぎではいけないな。 - たばこがんは関係が深いんだ。 - がんの原因は生活習慣にも関係があるんだ。	T1 がんに関する内容を扱うに当たり、配慮の必要な生徒は予めつかねおく。 T1 ワークシートのがん〇×クイズについて自分の考えで回答させる。	- 家族や親戚の方でがんと闘っている場合があります。授業は真剣に取り組みましょう。 - ワークシートの1枚目に〇×クイズがあります。各自挑戦してみましょう。	
	3 DVD がんちゃんの冒険を視聴し、 がんと生活習慣の関連を知る。 (DVD1～8／8分2秒) 		T1 DVDにクイズの答えがあるので確認し、自分や家族の生活を振り返るよう促す。 T1 学習課題を提示する。	- DVDにはクイズの答えが隠されています。答えを確認しながら観ましょう。ワークシートには主人公のオッジさんの生活の様子を最低3つ以上書いてみましょう。 - オッジさんの生活の様子を書き出すことができましたか。クイズの答えあわせをします。間違えた場合は赤字で正解を書きましょう。クイズ1は×、クイズ2は○、クイズ3は○、クイズ4は○、クイズ5は×でした。 - 今日の学習目標は、がんに対する正しい知識を理解し、これからの自分の生活行動について考えてみようです。	
	がんに対する正しい知識を理解し、これからの自分の生活行動について考えよう。		T1 ゲストティーチャーの紹介をする。	今日は、がんのことを専門的に教えていただくゲストティーチャーをお招きしています。保健師の〇〇さんです。ここからは〇〇さんのお話をよく聞いていきましょう。	



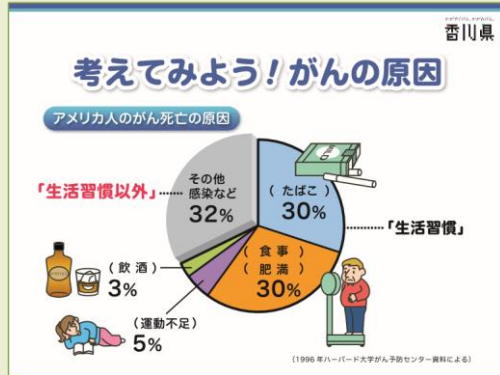
次のページに続く

	学習内容・活動	予想される生徒の反応	教師の支援 (T1:担任／T2:保健師)	T1(担任)	T2(保健師)
展開 20分／50分	4 がんのことをもっと詳しく知るためにスライドによる説明を聞く。  がんにはどんな種類があり、どのがんが多いのかを知る。 	香川県で亡くなる人が多いがんは肺がんなんだ。	T1からT2へ。 T2 香川県では、約4人に1人ががんで亡くなり、多くの人に注意の必要な病気であることを確認させる。 板書 香川県の死亡原因約4人に1人ががんで亡くなっている T2 知っているがんの種類を聞き、予測させる。		•こんにちは、保健師の〇〇です。 (所属など自己紹介) •がんちゃんの冒険はどうでしたか。DVDでは日本人の2人に1人ががんにかかる可能性がある。また、がんは、欧米では「減っている」のに、日本は「増えている」ことを学習しましたね。皆さんが授業前に書いたアンケートを見せてもらいましたが、「がんは治らない」と思っている人が多かったです。本当にそうでしょうか。香川県で増えている大腸がんを例にとってみると、早期で見つかり治療した場合、90%以上の人が治るという結果が出ています。早期に発見されたがんは、ほとんどが治癒するようになりました。 •今日は、2人に1人がかかるといわれている病気「がん」、「がん」とはどういう病気なのか、自分には関係ないのか、考えながら一緒に学習していきましょう。 •皆さんは、保健師という職業があることを知っていますか。保健師は健康な人が病気にならないような予防活動をする職種です。予防接種や今日のような健康教育もそのひとつです。 •今日の授業はがんのことについて学習します。家族の人や親戚の人のがんの体験から、授業を聞いて、辛くなるかもしれません。そんな時は、遠慮せずに、先生に伝えてください。決して特別なことではありません。 •今日は、スライドとワークシートを使ってがんについて一緒に学習していきましょう。ワークシートを開いて下さい。がんはたくさん種類があります。どんながんの種類を知っていますか。 •いろんながんがありますが、香川県では、1年間に亡くなる人のうち、約4人に1人ががんで亡くなっています。 •では、香川県で亡くなる人が多いがんの種類を学習しましょう。ワークシートの表にあてはまるがんの種類を少し考えてみましょう。 ・ 答えは、1位肺がん、2位大腸がん、3位は膵臓がん、4位胃がんです。前のスライドを参考に正解をワークシートに書きましょう。

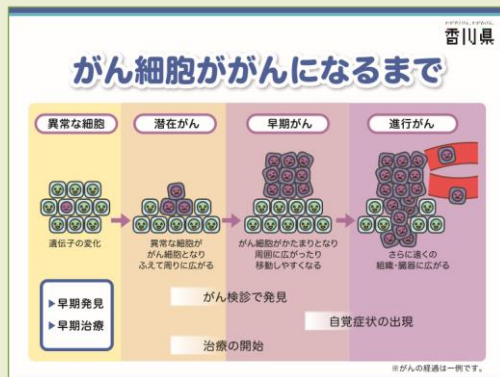


学習内容・活動

- がんの原因の内容を知る。



- がんの進行経過から発見するタイミングを知る。



予想される生徒の反応

- その他の原因ってなんだろう。

- 生活習慣だけではがんは防げないんだ。

- がんは、がん細胞が細胞分裂を繰り返して大きくなったものなんだ。

教師の支援
(T1:担任／T2:保健師)

- T2** がんの原因に興味を持たせる。
T2 小学校で学習した病気の起こり方について確認。

板書

病気の起こり方

- | | |
|-------|--------|
| ①生活行動 | ③体の抵抗力 |
| ②病原体 | ④環境 |

- T2** グループの答えを1名発表させ、答えをワークシートに記入を促す。
T2 その他の原因を考えるようにさせる。

- T2** がんの進行過程を説明した後に検診と自覚症状の発見時期を予測させる。

T1 (担任)

T2 (保健師)

スライド次へ

- では次に、がんの原因について学習しましょう。
- 小学校の保健では病気の起こり方を学習しました。がんちゃん冒険にもがんの原因について触れていました。スライドの円グラフはアメリカで調査されたものです。今日は、このグラフで学習をします。
- 発問** ここで、グラフの括弧の答えを班で考えてみましょう。時間は2分間です。1名発表して下さい。
- スライドに注目しましょう。(正解をスライドで示す)
- 答えの「たばこ」「食事」「肥満」「運動不足」「飲酒」は、分類すると「生活習慣」ですね。これは、病気の起こり方にあてはめると、①生活行動ですね。
- では、残りその他の感染など32%に注目しましょう。これは、感染や環境要因、ごくわずかですが、遺伝などです。遺伝はがん全体ではほんの一部と言われています。これらを分類すると「生活習慣以外」です。病気の起こり方にあてはめると②病原体③体の抵抗力④環境ですね。
- その他のうち、日本人は、感染によるものが多いと言われており、子宮頸がんや肝臓がん・胃がんがあてはまります。
- 発問** 原因の分類から考えてみましょう。がんはよい生活習慣だけで予防できるのでしょうか。答えはいいえです。32%はその他の原因があるし、がん細胞は毎日作られるということも学習したようにがんは誰もがかかる可能性があるということです。それは、あまり知られていない、とても重要なことです。

スライド次へ

- 次に、がん細胞ががんになっていく過程を学習しましょう。
- 正常細胞の核には遺伝子があります。その遺伝子の小さな傷が何度も繰り返されてがん細胞ができます。
- 通常は、体に備わった免疫細胞ができてしまったがん細胞を退治します。しかし、中には免疫細胞の監視をくぐりぬけて生き残るがん細胞があるんですね。
- 生き残ってしまったがん細胞は、細胞分裂を繰り返し、大きくなっていきます。

学習内容・活動

予想される生徒の反応

教師の支援
(T1:担任／T2:保健師)

T1 (担任)

T2 (保健師)

- がん検診は対象となる年齢があることを知る。

市町で受けられるがん検診		
①種類	②対象となる人	③受診間隔
肺がん検診	40歳以上の男女	1年に1回受診
大腸がん検診	40歳以上の男女	1年に1回受診
胃がん検診	原則50歳以上の男女	原則2年に1回受診
乳がん検診	40歳以上の女性	2年に1回受診
子宮頸がん検診	20歳以上の女性	2年に1回受診

- 熱や鼻水、咳などによって風邪かなと思うようになるな。
- がんは自覚症状がないときに検診で発見することが大事なんだ。
- 将来、がん検診を受けたいなあ。
- 年齢によってがん検診を受けることができるんだ。

T2 生徒の検診を例にがん検診を身近に感じるようにする。

スライド次へ

- さらに、細胞分裂を繰り返し大きくなり、遠くの臓器に広がっていきます。
- 発問** 虫歯かなと感じるのはどんなときですか。
- 歯が痛い、冷たい飲み物がしみる、など悪いところの変化を感じて病気かなと感じますね。それは自覚症状ですね。がんも自覚症状が出現する時期があります。
- でも、がんの自覚症状には特徴があります。がんは、自分の細胞の突然変異の繰り返しでできたものですから、基本的に自分の細胞です。だから、かなり大きくならないと自覚症状がでないという特徴があります。
- では、体の中にあるがんをどのように知ればいいでしょうか。それは、「がん検診」です。
- 検診で発見できる時期と、自覚症状で発見できる時期の違いをスライドで確認しましょう。スライドを参考にワークシートを書きましょう。
- がんは早く治療を開始することが重要です。なぜかと言うと、がんは小さければ小さいほど治る確率が高くなるからです。早期がんの間に見つけて治療を開始することが大事です。「検診はがんが見つかるのでこわい」と聞きますが、皆さんはどう考えますか。もう学習したので分かったと思います。がんを早く見つけることは治療にとって最も大事なことになります。

スライド次へ

- では、がん検診について学習しましょう。皆さんも学校で歯科検診や、眼科検診など受けていますね。それは、学生に多い虫歯や近視などの病気を早く見つけるものです。
- 大人も、年齢に応じて多くの人がかかる可能性のあるがんの検診が準備されています。
- がんの発生は何歳ごろから増えると思いますか。がんは、40歳を過ぎると増えはじめます。女性は、もっと早く30代前半から増える傾向にあります。乳がんや子宮頸がんのため、男性より早く増えはじめます。そのため、ほとんどのがん検診は40歳から受けることができ、子宮頸がん検診は20歳から受けることができます。

	学習内容・活動	予想される生徒の反応	教師の支援 (T1:担任／T2:保健師)	T1(担任)	T2(保健師)
展開 20分／50分	- がんの治療法にはいろいろな方法があることを知る。 がんを治す方法はいろいろあります 香川県 おもながんの治療方法 手術 緩和ケア 化学療法 放射線療法 早期発見・早期治療 その人にあった治療方法を考えます。 ▶がんの種類・型 ▶がんの大きさ・進行度 ▶がんのできている場所 ▶患者の年齢・体力 ▶病院の施設・スタッフ ▶本人・家族の希望 チームでがん医療を支えます。	いろいろ考えて治療方法を選んだ。	T2 発見から治療につながる大切であることを意識させる。		- 前のスライドで、がん検診でがんを早期に見つけることを学習しました。検診で早期がんを発見するには、1年ないし2年ごとにきちんと受診することが大事です。 - 子宮頸がんの予防ワクチンを受けるとその予防効果が高まりますが、がんを予防する効果は60～70%といわれ、ワクチンを接種していても必ず検診を受ける必要があります。 スライド次へ - 次に、治療についてお話しします。 - 検診で見つかったがんはしっかり治療をしていくことが大事です。どのような治療があるか学習しましょう。 - 手術は、がんそのものを取り除く方法です。 - 化学療法は、飲み薬や注射など薬によって、がんを小さくする効果があります。 - 放射線治療は、がんには放射線をあて、がん細胞の分裂を止める効果があります。 - さらに、心と体のしんどさをやわらげる、緩和ケアという治療を行い、医療スタッフがチームとなって治療をサポートします。 - ここまで、がんの原因やがんの成長過程などについて学習しました。 - がんのことを学習して、がんで命を落とさないために自分が今できること、これからできることがわかりましたか。 - ところで、〇〇先生はがん検診の対象年齢ですが、今年の検診の予定はいかがですか。 - さすがですね、先生も体が大事です。検診を定期的に受診して下さい。先生ができる大切なことですね。 - つぎは、〇〇先生にボタンタッチします。よろしくお願いします。



次のページに続く

